

バ十二人ノ童部トハ、十二神將ノ化現ナルベシ、

〔都紀行〕廿五日○文久四年正月、中略一條辰橋は名のみ残りて今はなし、

〔和泉式部續集〕もどりばし

いづくにもかへるさまのみわたればやもどりばしとは人のいふらん

〔松葉名所和歌集十五〕辰橋 山城

懷中かざりなき人にあふ夜の曉に鳴とも鳥は忍びねになけ

〔和漢名數地理〕山城國大橋五

三條橋

〔山州名跡志洛陽十七〕三條橋 在鴉川上 欄干丸形、擬寶珠紫銅橋柱石柱、橋行六十三間、幅四間五寸、

〔都名所圖會〕三條橋は東國より平安城に至る喉口なり、貴賤の行人常に多くして皇州の繁花

は此橋上に見えたり、欄干には紫銅の擬寶珠十八本ありて、悉銘を刻○銘略

〔見た京物語〕江戸より京への入口は三條大橋なり、是加茂川なり、其先の小川にかゝり、又橋あり、是三條小橋なり、

〔伊勢參宮名所圖會〕京三條橋 太閤秀吉公、増田長盛に奉行せしめ作る所也、東海道五十三驛

これよりはじむ、橋の前後旅館多し、

〔見た京物語〕三條の橋より江戸日本橋まで里數百廿六里六町一間ありとぞ、

〔續史愚抄後陽成〕天正十八年正月□日□□關白秀吉 令右衛門尉長盛増田造三條大橋銘曰、磐石

五尋、切石之柱三十三本、蓋於本朝、石柱始于茲云、橋銘、

〔都のにぎはひ〕三條橋

天正十八年大橋掛渡されしより以前、橋のありしこと見あたらす、太平記などにも三條河原

三條橋